

## 「三重県企業庁の経営に関する懇談会」の開催結果（概要）

1 日 時 平成21年2月5日（木） 13時30分から15時45分まで

2 場 所 ホテルグリーンパーク津

### 3 出席者

#### （1）懇談会構成員（五十音順）

- ・柴田 義一（㈱東芝四日市工場施設管理課 課長）
- ・豊田由紀美（Y's建築設計事務所 代表）
- ・中川千恵子（㈱中川製作所 取締役会長）
- ・松尾 茂生（松阪市 水道事業管理者）
- ・村上 誠吾（日本板硝子㈱エンジニアリング部 部長）

#### （2）事務局

- ・企業庁長、経営分野総括室長、事業分野総括室長、電気事業対策総括推進監兼RDF特命監、経営企画特命監、各室長 他

### 4 内 容

#### （1）説明事項

- ・昨年度の「懇談会」でのご意見と企業庁の考え方
- ・水道、工業用水道事業の実施状況
- ・浄水場で発生する汚泥の有効利用
- ・電気事業の実施状況
- ・企業庁の経営状況

#### （2）意見交換

### 5 主なご意見

- ・経営改善を進める中で、ボトルウォーターによるおいしい水のPRや浄水場汚泥の有効利用など、新たな取組を進めてもらっており評価している。
- ・水道の水質については、現状の取組に問題はないかもしれないが、例えば、地中でろ過できるとされていても、実際には水質に影響が出ることもあるかもしれない。このため、今後も水質の取組について検証を怠らないようにしてほしい。
- ・民間活力の導入など経営の効率化の視点も重要であるが、耐震化対策といった安全・安定供給に欠かせない取組に軸足を置くべきであり、県民の生活に将来影響が出ないよう取り組んでほしい。
- ・市水道事業においても、財源が厳しい中、施設の耐震化を早急に進めている。今後も組織の合理化などにより、安価な水を供給してほしい。

- 生産量が落ちるに伴い使用水量は減少しているが、工業用水の料金はあまり変わらない。企業としては、工業用水の受水費負担の軽減に努めてほしい。
- 工場の操業にとって、工業用水の安定供給は重要である。また、濁り水は生産に影響を与えるため水質管理も合わせてお願いしたい。
- 利益還元の方法として、料金値下げも必要であるが、災害時に早期復旧できるよう耐震化対策も進めてほしい。
- RDF 焼却・発電事業は、赤字が続いており民間企業であれば続かない事業ではないか。経営を抜本的に見直し、経営資源を有効に活用すべき。
- 長期経営ビジョンにあるとおり、水力発電事業の民間譲渡や施設の耐震化は今後とも計画どおり進めてほしい。
- 世界的な経済情勢の悪化で企業は生産減に追い込まれており、工業用水への影響も大きいと思うが、経営面での対策は考えているか。
- 包括的な民間委託の導入を進めているが、従事する職員の処遇はどうなるのか。企業庁内での技術継承への対応を進めてほしい。